

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

## P2 特集1

地域の生活・福祉課題にチャレンジする社会福祉法人  
～“ほっとかへん”が合言葉!～

## P4 特集2

“ほっとかへん”を合言葉に、できること  
～「支え合い社会」県民フォーラムを開催!～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 私の物語  
どんな命も切り捨てられない世の中に  
玉木 幸則さん(西宮市)

P8 みんなでつくるひょうごの福祉  
自治振興会が描く、地域の未来  
～みんながつながる地域づくり～

P9 福祉トピックス  
地域福祉ホットニュース

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

2017

11

No.801

11月は  
「児童虐待防止推進月間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

福崎町

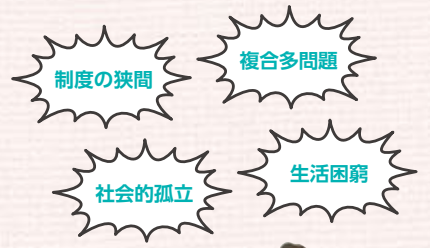
辻川山公園





# 地域の生活・福祉課題に チャレンジする社会福祉法人

## ～“ほっとかへん”が合言葉！～



地域の支え合いやつながりが希薄化する中、社会的孤立や生活困窮、子どもの貧困など従来の福祉制度では解決困難な課題が顕在化している。

県内では、市区町域で「社会福祉法人連絡協議会」を設立し、協働のネットワークで地域の生活・福祉課題にアプローチする“ほっとかへんネット”の取り組みが広がっている。

今回の特集では、県内の「社会福祉法人連絡協議会」（以下、「法人連協」）の取り組みを紹介するとともに、これからの地域づくりについて考えたい。



### 社会福祉法人のネットワーク

社会福祉法人は、「公益性」「公共性」「非営利性」を有する特別法人として、特別養護老人ホームや保育所等の社会福祉施設を経営している。その他にも、施設の拠点機能の地域開放や、専門性を生かした各種相談活動、介護予防や福祉学習の実施など、社会福祉事業を基盤に地道に活動を行ってきた。

平成28年度からは、社会福祉法人の責務として「地域における公益的な取組」が求められることとなったが、地域の生活・福祉課題が多様化・複雑化する中、個々の法人が個別に対応するよりは、複数の法人が連携して、力を合わせて対応

表1 社会福祉法人連絡協議会の設立状況
神戸市 〔東灘区、灘区、兵庫区、長田区、須磨区、垂水区、北区、西区〕
明石市、伊丹市、宝塚市、小野市、三田市、篠山市、丹波市、南あわじ市、佐用町 (平成29年9月1日時点)

応することが重要になっている。県社協では、平成26年度から本格的に法人連協の設立を支援しており、現在、17市区町で設立されている(表1)。

各市区町の法人連協では、地域特性に応じて多様な実践が展開されているが、今回は、制度の狭間の課題や総合相談の体制づくりに取り組む事例を紹介したい。

### 事例1 生活環境に課題を抱える困窮世帯への支援(兵庫区)

兵庫区法人連協では、昨年10月から「生活環境改善支援事業」を実施。緊急的に家の清掃や片付けが必要な世帯を支援している。

きっかけは、福祉サービスを利用している女性の母親が熱中症で倒れたこと。施設職員が訪問すると、クローラーもなく、ゴミが溢れて衛生状態が悪化しているのを発見した。一法人だけでは対応が困難なことから、法人連協に提案して、有志のメンバーで、企画チームを結成した。企画チームでは、①兵庫区内で、②本人からの要望があり、

### 事例2 地域で気軽に相談できる体制づくり(佐用町)

佐用町法人連協では、本年度から「福祉総合相談・支援事業」を始めた。地域住民の生活上の相談にワンストップで対応するため、法人連協に参画する法人が連携して相談体制づくりを進めている。

この事業は、①たらい回しにしない相談対応で福祉ニーズを見逃さない、②自法人で対応できない場合は適切な機関へつなぐ、の2点を取り組み上のポイントとしている。

そのため、各法人で相談対応を担う職員養成が必要であり、「相談員養成研修」を開催した。参加した職員は、「相談しやすい地域の雰囲気、支え合いの地域づくりへつながると話す。

また、目黒会長は、「引きこもりや8050問題等、福祉制度にながっていないニーズへも、ネットワークで対応したい」と今後の展望を語る。引き続き相談員の養成に取り組



家の中の片付けを行う様子。地域の生活・福祉課題と向き合う

みながら、本格実施に向けて、民生委員・児童委員や町内の福祉関係団体、行政との連携・協働にも取り組んでいく。



地域住民の相談を受け止めようと学びを深め、協力関係を築く職員ら

### 「ほっとかへん」が合言葉！社会福祉法人のチャレンジ

2つの事例にあるとおり、社会福祉法人が協働する法人連協の取り組みは幅広い。一法人で取り組めない課題も、社会福祉法人のネットワークにより、地域の生活・福祉課題へアプローチできる。例えば、保育所だけでは対応できない相談内容も、他の法人につないで対応することも可能となる。

社会福祉法人は専門職や拠点などの多様な社会資源を有しているが、地域の生活・福祉課題を発見・把握することがなかなか難しい。そこで、地域のニーズを把握しやすい民生委員・児童委員や市区町村協、地域包括支援センター等と連携することにより、「ほっとかへん」を合言葉に協働のネットワークを広げていくことが重要である。

現在、国が進めている「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けては、多くの機関や団体の協働と、住民主体の地域づくりがポイントとされている。

県社協2020年計画においても、「福祉でまちづくりを進めよう」を重点プロジェクトの一つとして位置付けており、社会福祉法人連絡協議会をはじめ、多様な主体との協働のネットワークによる取り組みの方向性を掲げている。今後は、社会福祉法人が中心となった地域づくりの取り組みにより、多様な主体が参画し、協働する「福祉でまちづくり」につながっていくことを期待したい。





# “ほっとかへん”を合言葉に、 できること

## ～「支え合い社会」県民フォーラムを開催！～

本会では、平成24年度から「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを推進しているが、「無縁社会」を巡る状況は年々深刻化し、制度の狭間の課題や社会的孤立などの新たな課題も浮上している。

本年度の総会では、「無縁社会」に対する警鐘を鳴らすだけでなく、「支え合い社会」を目指した具体的な取り組みを進めるためのフォーラムを開催した。

国では「地域共生社会」の実現や「我が事・丸ごと」の政策・施策、取り組みも推進されており、これらの背景には、全県キャンペーン同様、「無縁社会」に対する危機感がある。

この特集では、先日開催した「支え合い社会」県民フォーラムの概要報告を行うとともに、これからの事業推進の方向性について考えたい。



### 「支え合い社会」 県民フォーラムの 開催について

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの総会を、8月29日に神戸芸術センターで650名の参加を得て、「支え合い社会」県民フォーラムと題して開催した。

地域社会では、「子どもの貧困」や「社会的孤立」が課題となり、「本当の豊かさ」や「地域共生社会」の実現がテーマとなっていることから、あらためて「無縁社会」に警鐘を鳴らし、皆で「支え合い社会」を目指していくための場として開催した。

### パネルディスカッションと 記念講演の主な内容

当日は、総会のほかに、「パネルディスカッション」と「記念講演」の2本立てで開催した。

パネルディスカッションでは、宝塚市で民生委員として活動する福住美壽氏、赤穂市で「子ども食堂」を運営する岩崎由美子氏、神戸市の社会福祉法人で「農福連携」に取り組む小笠原敏有氏が登壇し、「ほ

とかへん”を合言葉に、できること”をテーマとし、桃山学院大学の松端克文氏がコーディネーターとなって進行了。

福住氏は、「独居高齢者や孤独な子どもなど、地域には気になる人がいる。さりげなく寄り添いたい」と地域での居場所づくりやサロン活動の意義を語った。

地域の「母親クラブ」から活動を始めた岩崎さんは、古民家を多世代の交流拠点にしており、「子ども食堂をきっかけに、地域の交流を図りたい。それぞれのできることを生かして地域を元気に」と話した。

障害者の就労支援と農業の担い手不足解消を同時に目指す「農福連携」に取り組む小笠原氏は「皆がやりがいを見つけ、それぞれのできることをできる範囲内でできるようにしたい」と、今後の展望などを紹介した。

参加者からのアンケートでは、「自ら行動することが大切。自分も地域の役に立ちたい」「自治会を立ち上げなければ」と痛感「農福連携が面白い。社会福祉法人ともつながりたい」「人の関わりが人生を楽しくするのであった」といった感想が寄せられた。



赤穂市地域活動連絡協議会  
会長 岩崎 由美子氏  
子どもの健全育成が目的の「母親クラブ」で、児童館等を拠点に親子交流等の地域活動を展開。



宝塚市第5地区民生児童委員協議会  
会長 福住 美壽氏  
阪神・淡路大震災での被災経験から、地域のつながり・支え合いや防災・減災活動を協働で展開。



社会福祉法人白百合学園  
理事長 小笠原 敏有氏  
昭和35年の家庭養護寮から、社会で生きづらさを抱える子ども等への専門的支援を展開

2部の記念講演では、尾木ママの愛称で親しまれる、教育評論家の尾木直樹氏が「地域でつながり、支え合う」をテーマに、障害の有無や性自認の違いを超え、お互いを認め合う社会の豊かさについて講演を行った（下欄参照）。

フォーラム参加者からは、「向こう三軒両隣の支え合いが大切」「地域活動に無関心な人に、いかに参加してもらうか」「企業とのコラボや働き世代への福祉教育が大切」などの意見も寄せられ、「支え合い社会」の重要性が共有された。「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンは、事業実施から5年が経過し、啓発活動中心ではなく、社会福祉法人の「地域における公益的な取組」などと連携するなど、具体的な実践を見えるカタチで推進していくことがポイントになる。その他にも「障害があっても生きやすい社会は、皆が生きやすい社会」という話に感動した「楽しい話の中にも、つながりの大切さを学べたなどの意見があった。」

「支え合い社会」を目指し、社会福祉法人や民生委員を中心とした相談支援や見守り、災害時の福祉支援のネットワークづくりなどを進めていきたい。

### 「支え合い社会」に向けた 取り組みを推進

## 記念講演 地域でつながり、支え合う

教育評論家・法政大学特任教授  
尾木 直樹 氏(尾木ママ)

子ども食堂が全国各地で増えているが、全国的にはようやく貧困対策の域から抜け出そうとしているところで、地域の居場所づくりとしての役割を目指す兵庫の取り組みは、先駆的だと思う。

ほかの例では、山口県和木町には、大人が仕事関連の講座を開けば、中学生がスマートフォンの講師を務めるなど、町の誰もが先生・生徒になり、住民同士の学び合いを町がサポートしている。

学ぼうとする人は生き生きしている。そして、教える側も生き生きしている。

ボランティアも同じではないだろうか。人の役に立つことにやりがいを感じ、元気をもらうのだと思う。

文科省の推計では、小中学生の6.5%に発達障害の可能性があるとされている。コミュニケーションなどに配慮が必要な、発達障害の人が生きやすい社会は、誰もが生きやすい社会だ。誰にでも得意なことや苦手なことがある。個性、才能と認め、得意な部分は伸ばし、苦手なところは得意な誰かと補い合えればいい。支え合い、皆が生き生きできる。

地域で支え合い、皆が生きやすい社会を目指していきましょう。







このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

あきらめない

私のコーナー

# どんな命も 切り捨てられない世の中に



## Personal History

平成4年～平成24年 NPO法人メインストリーム協会(西宮市)で活動  
平成24年～ NHKのEテレ「バリバラ」に出演  
平成25年～ 「障害者総合相談支援センターにしのみや」に勤務

たまき ゆきのり  
**玉木 幸則**さん (西宮市)

「**阪神・淡路大震災の経験から**」  
僕は、学生時代に「TRY」という駅のバリアフリー運動に参加し、それがきっかけでメインストリーム協会の障害者自立生活運動に携わりました。  
人生のターニングポイントは、**阪神・淡路大震災**です。あの時、僕のベッドの上にアパートの天井が落ちてきて、近所の人に助け出されました。隣に住んでいた学生は亡くなりました。ギリギリのところで助かったのです。僕は命の大切さを伝えていかなアカンと思い、大げさかもしれないけれど生まれ変わりました。  
メインストリーム協会の事務所も震災でつぶれました。そこで、事務所復興のカンパや障害者のアテンド事業、自立生活プログラムに取り組みました。がむしゃらでした。震災当時から変わらないのは、「命が大切にされる世の中にしたい」という思いです。  
「**やまゆり園に思うこと**」  
昨年はショックな事件があ

りました。障害者支援施設津久井やまゆり園での殺傷事件です。僕が出演するテレビ番組「バリバラ」には、この事件関連の手紙が500通届きました。このうち100通は「容疑者に共感できる部分がある」という内容でした。僕はそうした意見の人に会って話を聞いたのですが、共感できると述べた人自身が、自分がいつ社会から切り捨てられるか分からない不安を抱えていました。そうした不安があるために、より弱さを抱える人を切り捨てる構図になっているのではないかと。生産性があるかという物差しで人の命を価値みる社会は生きやすいのだから。いや、生きていく全ての人に何らかの役割があるはずだ。僕はこれを言い続けなければいけないと思っています。  
「**言ってもアカンと思ったら終わり**」  
僕がずっと思っていることは、どうせ言ってもアカンと思っただら終わりだということです。諦めないことが一番大事。30年前の駅にエレベーターはついていませんでした。でも、訴え続けたから、今や

## Eテレ「バリバラ」 毎週日曜・夜7時～

「バリバラ」は、「みんなのためのバリアフリー・バラエティー」。笑いの要素を織り交ぜ、これまでタブー視されてきたテーマにも挑んでいます。

「生きづらさを抱えるすべてのマイノリティー」の人たちにとっての「バリア」をなくすために、みんなで考えていく番組です。

(出演者:山本シュウ、大西瞳、玉木幸則、大橋グレース他)

エレベーターの設置が当たり前になっています。言い続けて、しっかりと対話をすれば物事は変わること身をもって知ったから僕は諦めません。それと同じで、30年後には、高齢だとか障害だとかを越えて、誰もが抱える弱さをそのまま受け止められる世の中になってほしい。悩みを、たらいまわしにしない、抜け落ちない、包括的な支援も当たり前になってほしい。できる、できないの議論ではなく、どうやったらできるのかを周囲の人たちと考えて、一つずつ前進させたいなと思っています。



## TOPICS

### 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会の総会を開催!

8月29日、神戸芸術センターにおいて、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会の総会と、「『支え合い社会』県民フォーラム」が開催され、県民、福祉関係者ら650名が参加しました。

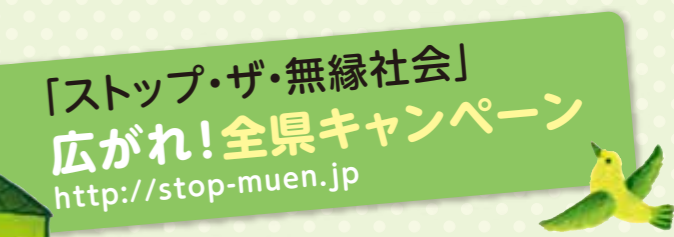
このフォーラムは、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの趣旨が広く県民に理解され、支え合い社会づくりへ参加の契機となるよう、県社協主催の「夏季大学」を発展的に衣替えし新たに開催したものです。

開会に当たり、キャンペーン推進協議会代表幹事の吉本知之県社協会長は、「各地で居場所づくりや、



ほっとかへんネットなどの取り組みが広がっています。福祉に限らず、さまざまな分野で地域の絆を広げ、共に支え合い社会づくりを目指していきましょう」と参加者に呼び掛けました。

キャンペーンを初めて知る参加者も多くいたことから、



「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

キャンペーンの趣旨やこれまでの取り組みを振り返った後、平成28年度事業報告・決算と平成29年度事業計画・予算が承認されました。

平成28年度からの事業として、地域の住民同士の見守りの第一歩となるコミュニティカフェの開設応援事業が、県内各地で展開されています。

“支え合い社会”に向け、協働の輪を広げていきましょう(フォーラムの詳細は本紙4～5ページ参照)。



### キャンペーンに寄せられたメッセージ

総会・県民フォーラムに参加された皆さんより多くのメッセージを頂きましたので、その一部をご紹介します。

- ・核家族、独居・老々世帯が増える時代。「向こう三軒両隣」で、隣保単位で支え合う精神が必要!
- ・地域で事情や取り組みが違う中、我々が今後どうあるべきか早急に考えたい。やりがいもあるぞ…。
- ・地域の中で、小さな集いを開催しているが、大事にコツコツ活動していこうと思う。
- ・一人一人ができることから参加し行動することが大切。また、行動する人が増える働き掛けも必要。

### 協賛のお礼

このたび、キャンペーン推進協議会総会の開催にあたり、以下の企業より協賛を頂きました。心よりお礼申し上げます。

株式会社大正銀行  
「エコバッグ」

シンエイテクノ株式会社  
「靴の中敷き」





タイムリーな  
情報をお届け

## 福祉トピックス

### 県内でも進む!「我が事・丸ごと」地域共生社会に向けた取り組み

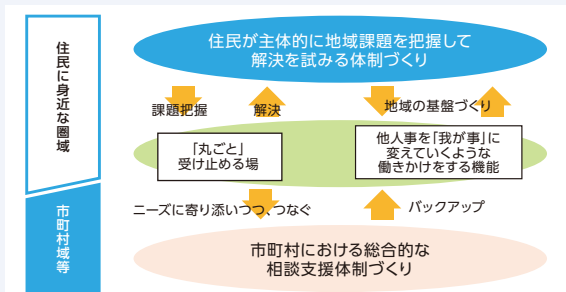
国では、一億総活躍プランが掲げる『地域共生社会』の理念の実現を図るため、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を設置し、支援を要する人たちの多様で複合的な生活・福祉課題の解決に向けて、住民参加による包括的な支援体制の構築を目指している。

実現本部は、9月12日に地域力強化検討会の「最終とりまとめ」を公表し、「市町村における包括的な支援体制の構築」「地域福祉(支援)計画」「自治体・国の役割」等の方向性を示した。今後は、図のような相談支援体制を「住民に身近な圏域」と「市町村域等」に構築し、「丸ごと」受け止める場と“他人事を「我が事」に変えていくような働きかけをする機能”の充実を図る。

国は、『地域共生社会』の実現を「今後の福祉改革を貫く基本コンセプト」と位置付け、すでに「市町村における包括的な支援体制づくり」「地域福祉計画の充実(努力義務化)」に関して社会福祉法を改正した(平成30年4月施行)。この動向を受けて、兵庫県は9月に研修会を開催。各市町の担当者らが参加し、国のモデル事業に取り組む芦屋市・たつの市から実践報告があった。

今後は、行政機関と共に、市町社協、民生委員・児童委員、社会福祉法人などが連携・協働しながら、総合的な相談支援と自立支援を進めることが求められる。

■図 「我が事・丸ごと」に向けた包括的な相談支援体制のイメージ図  
※地域力強化検討会の中間とりまとめの図を簡略化したもの



## 地域福祉ホットニュース

県内の新しい取り組みや  
イチオシ情報を紹介します。



### 明石市

#### 「明石子ども食堂プロジェクト」が始動!

明石市社協では、子ども食堂の開設や運営の支援を今年4月から開始。子どもの居場所づくりとして市内全ての小学校区での開設を目指している。具体的には、開設に向けた助成の実施や、子ども食堂を手伝うボランティア、場所や食材の提供などをサポートする方々を募集している。また、ホームページには、子ども食堂の連絡先一覧や、月ごとの開催カレンダーを掲載し、積極的に情報を発信している。

現在、16の子ども食堂が開設されており、「将来的には市内の子ども食堂のネットワークづくりも視野に入れている」と市社協の担当者は語る。



夏休みに開催された子ども食堂

### 豊岡市

#### 毎月1日は、「フードデイ」

豊岡市社協では、失業や病気、孤立等さまざまな理由で生活に困り、食べることができない住民に対し、緊急的に食料を提供する「緊急食料支援事業」に取り組んでいる。

今年7月から毎月1日を「フードデイ」として広く呼びかけを行い、個人や企業からレトルトのごはんや食品、カップ麺、缶詰などの食品の提供を受け付け、食料を必要とする人・世帯に届けている。

さらに、市社協では食料支援に併せ、相談支援員が本人の気持ちに寄り添いながら、総合的な相談に応じ、就労や家計相談、孤立の解消等の支援を関係機関や地域と連携して行い、生活困窮世帯の自立を支援している。



食を繋ぐ  
1

丹波市青垣町の西部、7つの自治会で構成される神楽地区は、加古川の源流に広がる美しい田園地域。こんな地域での田舎暮らしに憧れて都市部からたくさんの方が移住しているんだって。移住者も巻き込んで、地域のつながりづくりが展開されているよ。



## みんなで作る ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする  
取り組みを紹介します。

### 住民自身が 魅力を伝えられる地域に

中山間地で著しく進む過疎化。ここ神楽地区も、平成8年に1,800人だった人口が平成24年に1,400人へと減少し、このままでは神楽がなくなるとの危機感が高まった。そこで、神楽自治振興会は、「地域づくり計画」を作って、「移住の推進」を中心とした県内でも先駆的な地域の活性化に取り組んだ。

住民によるワークショップを重ね、気付いた地元の良さ。加古川の源流で豊かな自然が広がる神楽の魅力を守り伝えていくため、清流のバイカモやヒメボタルなど自然環境の保全も自治振興会の中心的な取り組みとなっている。

「移住者に神楽の魅力を伝えるには、住民である我々が神楽を好きになることが大切」と足立理事長は語る。地域の宝を守り、可視化させる一連の活動が、住民自身のさらなる地域への愛着につながっている。

### 新たな地域のつながりへ

古民家を改修し、平成24年に

## 自治振興会が描く、地域の未来

～みんながつながる地域づくり～



田舎暮らし体験イベントで流しそうめんを楽しむ子どもたち



移住希望者に神楽の地域を案内する

オープンした田舎暮らし体験古民家「かじかの郷」は、オープン以来ほぼ毎月利用される盛況ぶりです。今年4月までに44家族が利用した。また、年2回、川魚捕りや流しそうめんなど子どもも楽しめる田舎暮らし体験イベントを実施。移住促進のため、売り貸し可能な空き家情報を集め、情報提供する窓口も設置した。このような取り組み成果や児童養護施設「睦の家」の開設も相まって、平成25年以降、人口減少に歯止めがかかり、神楽地区約500戸のうち約1割を移住世帯が占めている。

取材を終えて  
「神楽の住民は、新しいことを始めるのはなかなか腰が重い、いざ始まればとことんやる。そして、他の地域に負けない団結力がある」という話が印象的でした。それぞれの住民が、自分の持ち味を生かして、ここまで取り組みが広がっている神楽の底力を感じました。

一般財団法人 神楽自治振興会  
丹波市青垣町桧倉414-5  
TEL 0795-87-5808

の魅力を発信している。この他、イベントや神楽のPRなどさまざまな場面で地域活動に関わり、地域のつながりを深めている。  
今年4月には、地域で唯一の神楽小学校が惜しまれながらも閉校となった。そのような中でも、児童養護施設の進出や子育て世代のターナーなど、神楽で育つ子どもが増えるという明るい兆しも見えている。  
地域の将来を見据え、奮起して始めた取り組み。神楽の変わらぬ自然環境と、新たな地域のつながりが、今の神楽の魅力を生み出している。



### 大学生が地震被災地の復興支援ボランティアを実施

ひょうごボランティアプラザは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸、神戸市社協の3者共催により、東日本大震災および熊本地震災害被災地の復興支援として、宮城県名取市および熊本県益城町においてコンソーシアムひょうご神戸加盟の13大学42名の大学生がボランティア活動を行う「東日本大震災・熊本地震災害復興支援学生ボランティア事業」を実施した。

この事業は、5月から事前研修やミーティング、現地調査を踏まえて学生が自らプログラムを企画



東北での活動  
現地の人々とのふれあい。和やかな雰囲気にもまれた

し実施するもので、8月25日から28日に宮城県名取市において、現地の大学生と意見交換の後、仮設住宅や復興住宅、児童センターにおいて、傾聴や子ども遊びなどを通じた交流・支援活動を行った。

また、9月8日から11日には熊本県益城町の仮設団地5カ所において、茶話会や花壇作り、清掃活動などの支援を行った。学生たちは、それぞれの被災地の現状を学ぶとともに現地の人々と交流した。

9月23日には、活動の振り返りの会を開催し、学生たちは活動を通じて学んだことや感想を語り、今後のボランティア活動への想いを共有した。



熊本での活動  
集会所でアロマキャンドル作り。子どもたちの笑顔が溢れた

### 九州北部豪雨被災地支援 コープこうべ協働バスの実施

同プラザは、九州北部豪雨災害被災地支援として、生活協同組合コープこうべの組合員から寄せられた九州北部豪雨緊急募金よりバス経費の助成を受け、福岡県朝倉市に災害ボランティアバスを実施した。

9月23日から24日の2日間、コープこうべの組合員や兵庫県ボランティアなど20名が床下の泥出しやガレキ撤去などに従事した。

活動した杷木松末地区中村集落は、乙石川の流域に位置し、多くの家屋や農地が流され道路が寸断されており、活動の数日前にやっと車が入れるようになった。今後も息の長い支援が必要である。



福岡県朝倉市  
個人宅にて床下の泥出し作業

### 近畿地域福祉学会 平成29年度大会のご案内

近畿地域福祉学会は、12月16日に、「地域福祉の『政策化』の時代における住民自治とまちづくり」をテーマに平成29年度大会を開催する。

同大会では、講演とパネルディスカッションを通じて、地域共生社会の実体化、住民自治、地域福祉とまちづくりの課題等について考える。その他、自由研究報告、実践活動報告もあり、近畿の研究者や実践者間の情報共有を図る。

#### 近畿地域福祉学会 平成29年度大会

- 日時** 平成29年12月16日(土) 10:00~17:10
- 会場** こうべ市民福祉交流センター (神戸市中央区磯上通3-1-32)
- 対象** 学会員の他、社協役職員、社会福祉・地域福祉関係者など
- 定員** 150名 **参加費** 学会員・学生500円、一般1,000円
- 申込先** 神戸市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL:078-271-5317

### 福祉の就職説明会を 県内3会場で開催

県福祉人材センターでは、8月から9月にかけて、県内3会場(姫路市、明石市、尼崎市)で福祉の就職説明会を開催した。

就職説明会は、参加者が人事担当者や現場の職員から法人・事業所の特徴や働き方について情報提供を受ける場であり、全会場で約160名が来場し、120の法人ブースに足を運んだ。

明石会場では、駅前の複合施設のロビー(あかし市民広場)で開催したこともあり、学生だけでなく、当日に「福祉の仕事に興味がある

ので参加したい」と飛び込みの参加者もみられた。

県福祉人材センターでは、今後の職場見学バスツアー等においても、求職者への情報提供に継続して取り組んでいく。



あかし市民広場での説明会の様子

### 福祉のしごと職場見学バスツアー 参加者募集中!!

- 淡路コース: 11月17日(金) 8:30~  
淡路ふくろうの郷、緑風館
  - 阪神コース: 12月15日(金) 9:00~  
アマルネス・ガーデン、ゆめパラティース
  - 東播磨コース: 2月9日(金) 8:45~  
明石波の家福祉会、せいりょう園
- ※集合場所は、いずれもJR神戸駅の南口ロータリー

申込方法、見学施設の詳細  
はfacebookでチェック!

兵庫県福祉人材センター  
facebook



兵庫県では「助け合い 広がる つながる 赤い羽根」のスローガンのもと、5億3,331万9,000円を目標に来年3月31日まで共同募金運動が行われます。集められた募金は、子どもの居場所支援や一人暮らし高齢者の見守り活動等、身近な福祉活動に役立てられます。また、一部を「災害等準備金」として積み立て、災害時の被災者支援の活動に役立てられます。

県共同募金会では、10月1日に神戸空港ターミナルビル特設会場において、神戸市共同募金委員会と共催でオープニングセレモニーを開催しました。神戸の親善大使「スマイル神戸」による開始宣言に続き、来賓・参加者らによる募金活動を実施。神戸山手大学吹奏楽部の皆さんによる演奏のほか、神戸のマスケット「コーベア」も応援に駆け付け会場を盛り上げました。最後に、共同募金70周年の久寿玉割りを行い、節目の年を祝いました。

### 第71回赤い羽根 共同募金運動が スタート

兵庫県では「助け合い 広がる つながる 赤い羽根」のスローガンのもと、5億3,331万9,000円を目標に来年3月31日まで共同募金運動が行われます。集められた募金は、子どもの居場所支援や一人暮らし高齢者の見守り活動等、身近な福祉活動に役立てられます。また、一部を「災害等準備金」として積み立て、災害時の被災者支援の活動に役立てられます。



共同募金運動は、地域の福祉課題を解決するために、県民の誰もが参加できるボランティア活動です。今年も、皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

当日の様子は、県共同募金会ホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。

赤い羽根ひょうご 検索



久寿玉を割り共同募金70周年を祝う様子



神戸タータンとのコラボグッズの「チケットケース」

神戸開港150周年を記念して誕生した「神戸タータンのアイアムを身に着けた「あかはねちゃん」と「コーベア」



助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

**田辺三菱製薬株式会社**  
第6期「手のひらパートナープログラム」助成

難病患者の療養・就学・就労等、生活の質(QOL)向上に取り組む活動に助成します。ここでいう難病とは「難病の患者に対する医療等に関する法律第5条第1項」において2017年4月1日までに「指定難病」と告示された330疾患を指します。

①通常助成

対象 3年以上の活動実績 ※法人格の有無は不問  
助成額 1団体上限100万円

②少額助成

対象 1年以上の活動実績 ※法人格の有無は不問  
助成額 1団体上限30万円

締切り ①②ともに平成29年11月15日(水)消印有効  
☎ ③ 公益財団法人日本フィランソピエ協会  
TEL 03-5205-7580

URL <http://www.philanthropy.or.jp/>

**公益財団法人ヤマト福祉財団**

①障がい者給料増額支援助成金

既に障害者の給料増額に一定の実績がある施設・事業所(ジャンプアップ助成金)や全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所(ステップアップ助成金)に対し、事業資金を助成します。

対象 所定の要件を満たす就労継続支援A・B型事業所、地域活動支援センター、生活介護事業所  
助成額 【ジャンプアップ助成金】1件定額500万円(10件程度)【ステップアップ助成金】1件上限200万円(20件程度)

②障がい者福祉助成金

対象 会議、講演会、研修、出版、啓発、調査、研究、スポーツ、文化に関する事業  
助成額 1件上限100万円(総額1,000万円)  
締切り ①②ともに平成29年11月30日(木)消印有効  
☎ ③ 公益財団法人ヤマト福祉財団  
TEL 03-3248-0691  
URL <https://www.yamato-fukushi.jp/>

**公益財団法人日本社会福祉弘済会**  
平成30年度社会福祉助成事業

社会福祉関係者の専門性向上などを旨とした研修事業や研究事業に助成します。

対象 社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体

助成額 1団体上限50万円かつ助成対象経費合計の80%以内(総額2,000万円以内)

締切り 平成29年12月15日(金)消印有効  
☎ ③ 公益財団法人日本社会福祉弘済会  
TEL 03-3846-2172

URL <http://www.nisshasai.jp/index.html>

**近畿労働金庫**  
2017年度近畿ろうきんNPOアワード

子育て支援活動を進めるNPO法人やボランティア団体に助成します。

対象 近畿2府4県に主な事務所を置き、非営利の市民活動・ボランティア活動を行う、NPO法人と法人格のない任意団体

対象事業 平成30年4月1日～平成31年3月31日に国内で実施する子育て支援事業(前年度からの継続分でも可)

【はばたきコース】

団体規模に関係なく新規プログラムに助成します。

助成額 大賞50万円(1団体)、優秀賞30万円(2団体)、奨励賞20万円(5団体)

【はぐくみコース】

地域で活躍する予算規模200万円以下の小規模団体に助成します。

助成額 はぐくみ賞10万円(4団体)  
締切り 平成30年1月31日(水)必着  
☎ ③ 近畿労働金庫  
TEL 06-6449-0842

URL <http://www.rokin.or.jp/>

研修・イベント

**老人保健施設をご存知ですか?**  
～老健を上手に使って元気に長生き～

日程 平成29年12月15日(金)  
14:00～16:45  
会場 ハーバーホール(神戸市産業振興センター3F)  
参加費 無料  
締切り 平成29年12月8日(金)  
☎ ③ 一般社団法人兵庫県介護老人保健施設協会  
TEL 078-265-6933  
URL <http://www.hyoroken.jp/>

行事予定

- 11月 4日 子育て支援員研修 地域保育コース  
◆県学校厚生会館
- 13日 平成29年度苦情解決セミナー  
◆県立のじぎく会館  
日常生活自立支援事業 専門員・担当者・生活支援員研修会  
◆姫路市市民会館
- 17日 福祉のしごと職場見学バスツアー(淡路コース)  
◆淡路ふくろうの郷・緑風館
- 20日 県社協第250回理事会  
◆県福祉センター
- 21日 生活支援コーディネーター養成研修(実践編)  
◆神戸商工会議所会館
- 23日 民間社会福祉事業職員互助会バレーボール大会2017  
◆ワールド記念ホール
- 25日 若年性認知症家族介護者研修会  
◆県立のじぎく会館
- 25日・26日 第5回町内・集落福祉全国サミットin淡路市  
◆関西看護医療大学
- 12月 6日・ 社会福祉援助基礎研修(Bコース)  
15日 ◆県社会福祉研修所
- 7日 県経営協 法人経営トップセミナー  
◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 12日 子どもの発達理解研修  
◆県社会福祉研修所
- 13日 財務管理研修  
◆県社会福祉研修所
- 15日 福祉のしごと職場見学バスツアー(阪神コース)  
◆アマルネスガーデン・ゆめパティース
- 16日 近畿地域福祉学会 平成29年度大会  
◆こうべ市民福祉交流センター
- 16日・17日 子育て支援員研修 利用者支援事業◆県社会福祉研修所
- 19日 会計実務基礎講座(通信課程)スクーリング  
◆県社会福祉研修所
- 24日 若年性認知症啓発フォーラム  
◆県福祉センター
- 25日 県内社協事務局局長勉強会  
◆県福祉センター

**丸大食品**  
心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます。

お中元・お歳暮には、多くの会員の皆様にご好評を頂き、誠にありがとうございます。当社では中元・歳暮用以外にも快気祝等のご進物用としてのご利用も承っております。今後とも宜しくご用命賜ります様、お願い申し上げます。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課  
〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10  
TEL06(4398)3038 FAX06(4398)3063



たっぷりの時間をかけて熟成させた最高級ハムギフト (HA-502)

「兵庫県福祉手帳2018」  
予約注文受け付け中!

兵庫県福祉手帳<2018年度版>が12月上旬発売予定です。カレンダーのほか、県内の福祉関係機関一覧を掲載しており、福祉関係者必携!

※民間社会福祉事業職員互助会の加入者には互助会より配布されますのでご注意ください。

2018

[サイズ]ヨコ9cm×タテ15cm [価格]970円(税込)

申し込み・問い合わせ先 兵庫県社協 企画部 TEL078-242-4633